

ソーシャルイノベーションフォーラム2016
見えない価値を可視化する 社会的インパクト評価の未来

社会的インパクト評価を推進するためのロードマップ

2016年9月30日

社会的インパクト評価イニシアチブ事務局
日本ファンドレイジング協会 事務局長／社会的インパクトセンター長
鴨崎貴泰

社会的インパクト評価の推進に向けて（概要）

～社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について～

平成28年 3月
社会的インパクト評価検討
ワーキング・グループ報告書

1. なぜ必要なのか

- 国際的な潮流：資金の出し手の姿勢が変化（より成果を求める流れ）
- 日本の現状：社会的課題が多様化・複雑化。意欲のあるあらゆる主体が知恵や技術を最大限発揮し、成長できる環境が必要
- 社会的インパクト評価は社会的課題の解決力を高める礎
 - 評価を通じ事業・活動の内容や方法を不断に見直し、組織運営の改善を図ることで組織が成長。
 - また、説明責任につなげていくことで資金、人材が公益活動に参画し、新たな手法を生み出すイノベーションをもたらす。

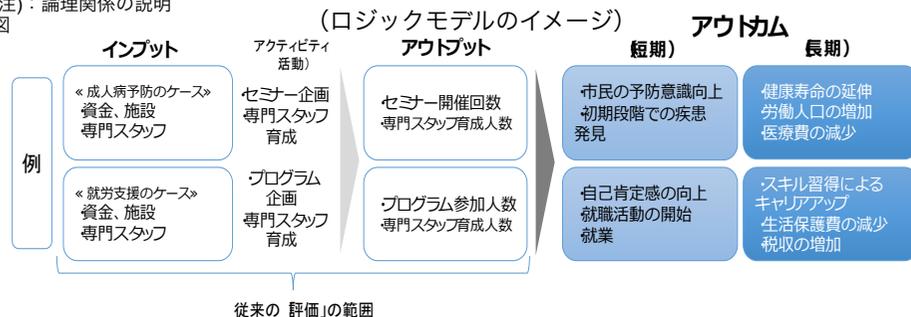
2. 社会的インパクト評価とは

社会的インパクト：短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「アウトカム(効果)」
社会的インパクト外評価：社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

（社会的インパクト評価の特徴）

- アウトプット評価に止まらず、その先のアウトカムを評価
 - 「ロジックモデル^(注)」を活用し「インプット」、「アウトプット」から「アウトカム」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにする。
- ⇒事業計画の実効性や事業成果に関する**説明責任**へ（⇒更なる資源獲得）
⇒評価を通じた課題等の発見が、事業や組織運営の改善へ（**学び・改善**）

(注)：論理関係の説明図



（評価の意義・効果の例）

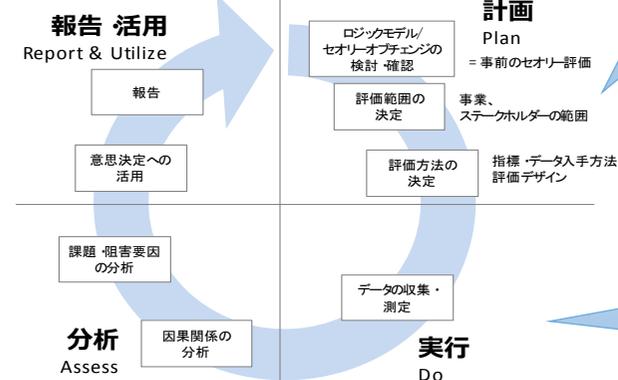
- 事業者：人材・資金の獲得、事業改善・組織管理・運営の向上 等
- 資金仲介者：資金の有効性の根拠、事業・活動の進捗・業績把握 等
- 資金提供者：支援先の組織、事業・活動内容、実現可能性の判断材料 等

（評価の原則（例））

- 重要性、比例性、比較可能性、利害関係者の参加・協働、透明性

3. どのように行うのか（評価の方法）

（評価過程（プロセス））



事業の計画段階からロジックモデル/変化の理論の確認作業を利害関係者がコミュニケーションを図りながら行う。

定量データ、定性的情報双方を活用することが望ましい。

（分析手法の例）

	概要
事前・事後比較	事前・事後の指標値を比較
時系列	事業実施前と後のトレンドの変化を比較
クロスセクション	一時点で地域や個人間の事業実施状況とアウトカムの相関関係をみる
一般指標	全国平均値などの一般指標値と比較
マッチング	実施グループとそれに近いグループを選定し比較
実験的手法	無作為割付けにより実施グループと比較グループに分け、その差を比較

4. 普及に向けた課題と対応策

（課題）

- ①意義や必要性に対する「理解不足」、②手法に対する「理解不足」、③手段（ツール）の不足、④基礎的な情報の未整備、資料の不足、⑤評価人材の不足、⑥評価コストの負担と支援の在り方

（対応策：今後1年以内に着手すべき主な取組）

- ①評価普及のためのシンポジウム開催と「評価推進フォーラム」の立上げ
- ②「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
- ③評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
- ④「変化の理論」「ロジックモデル」等基本ツールの手引書（日本語）整備
- ⑤海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
- ⑥評価の担い手の育成を目的とした講習会の実施とモデル事業
- ⑦評価事例（ベスト・プラクティス）蓄積とピア・レビュー実施による知識共有化

普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

課題

- 意義や必要性に対する理解の不足
- 手法に対する理解の不足
- 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足
- 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足
- 評価人材の不足
- 評価コストの負担や支援の在り方

対応策（着手すべき主な取組）

- インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ
- 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
- 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
- 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備
- 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
- 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施
- 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

社会的インパクト評価イニシアチブ設立検討会合（2016年6月2日）

約30団体の代表による意見交換を実施



社会的インパクト評価イニシアチブの設立とシンポジウムの開催（6月14日）

- ✓ 社会的インパクト評価の普及を目的として、2016年6月14日に「Social Impact Day 2016 – いよいよ動き出す社会的インパクト評価の未来 –」を開催。
- ✓ 参加受付開始から5日で300名の定員に達するなど、日本における社会的インパクト評価に対する関心の高さと機運の高まりを感じさせた。
- ✓ 評価ツールセットおよび評価実践マニュアルの発表。
- ✓ 日本で社会的インパクト評価を推進するための民間イニシアチブ「社会的インパクト評価イニシアチブ」の設立発表。



取り組みの紹介： Inspiring Impact

社会的インパクト評価推進にあたっては、民間の推進プラットフォームであるInspiring Impactが中心的な役割を果たしている



ビジョン： 2022年までに質の高い社会的インパクト評価をソーシャルセクターに普及させる

参画団体：



Association of
Charitable
Foundations

業界団体
(助成財団)



National Council
of Voluntary
Organizations

業界団体
(非営利組織)



Building Trust
Change

非営利組織向け基金



Charities
Evaluation
Services

評価機関



Evaluation
Support
Scotland

評価機関



New
Philanthropy
Capital

シンクタンク



Substance

シンクタンク

- 事業内容：**
1. 社会的インパクト評価の啓発（対事業者および対資金提供者）
 2. 社会的インパクト評価の実践支援（Measuring Up!、Impact Hub）
 3. 社会的インパクト評価の標準的な評価ツールの開発（Shared Measurement）

取り組みの紹介：ロードマップ

ロードマップが関係者間の合意で作られた上で、戦略的に施策が実施されている

	2012年	2013-15年	2016-22年	10年先の目標	
リーダーシップとカルチャー	<ul style="list-style-type: none"> インパクト測定のエビデンスを構築する 業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価の原則を開発する インパクト・アプローチのケースを創る 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価の原則を受け入れる 増加するインパクトアプローチへのコミットメント インパクトリーダーシップが実践される 	<ul style="list-style-type: none"> 多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる 	<p>何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。</p> <p>自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。</p>
ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&I)	<ul style="list-style-type: none"> インパクトファンダーのコミュニティを形成する インパクト評価からの失敗と学習のスペースを創出 ファンダーは、自身及び投資先に対するインパクトアプローチの価値を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> 20のファンダーが評価宣言にサイン 助成先に対するインパクト評価支援の原則及びガイドラインが存在する 増加するF, C&Isに対するインパクト評価へのコミットメント 	<ul style="list-style-type: none"> ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援 インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー 	<ul style="list-style-type: none"> コミッショナーは、実際（歴史的な）の業績に対する目標をデザインしている。 ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている 	<p>ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。</p> <p>インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。</p>
社会的インパクト評価支援 (IMS)	<ul style="list-style-type: none"> 共通診断/自己評価が利用可能 用語について合意（インパクト、アウトカム、アウトプット） 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価アプローチに関する簡単なガイダンスが利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> 組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる（明確なアクセスポイントを経由して） 多くの組織が、インパクト評価アプローチや、使用するD,T&Sの開発方法を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の「外」がレビューされ、その価値が知られている 多くの組織が、自分が必要とするD,T&Sの支援にアクセスする 	<p>効率的な支援のネットワークが存在する。</p> <p>分野別アプローチにリンクしており、ベストプラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。</p>
データ、ツール、システム (D, T&S)	<ul style="list-style-type: none"> ツールに関するガイダンスを提供する D,T&Sの市場を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ツールのベネフィットや挑戦をレビューする 政府のデータ共有のパイロット事業 	<ul style="list-style-type: none"> SMのD,T&Sが広範に利用可能 データ共有の青写真 	<ul style="list-style-type: none"> プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている 法令により公開され、アクセス可能な政府の主要データ 政府のデータにアクセスすることが、標準となっている 	<p>適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。</p> <p>それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。</p>
Shared Measurement (SM)	<ul style="list-style-type: none"> SMを複数の分野でテストする SMのベネフィットと課題をレビューする 	<ul style="list-style-type: none"> SMの原則に同意する SMの青写真に同意する 	<ul style="list-style-type: none"> SMチャンピオンとスポンサーが契約する F, C&Isによって活用されるSM 役に立つエビデンスとの連携によって、組み込まれたSM 	<ul style="list-style-type: none"> SMが傘下の組織、アカデミック、プロバイダー、ファンダー、コミッショナー、投資家の規範・標準となっている 	<p>Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。</p> <p>標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。</p>

Inspiring Impactが実施すべき優先事項	Inspiring Impactが実施できる優先事項	Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項
----------------------------	----------------------------	--------------------------------

イニシアチブ・メンバー（※2016年9月26日時点：78団体（うち賛同20） 順不同）

事業者	<p><NPO、ソーシャルビジネス> チャンス・フォー・チルドレン、育て上げネット、マドレボニータ、ハンガーフリーワールド、PLAS、クロスフィールズ、Homedoor</p> <p><企業> 日本IBM、デロイト トーマツ、公文教育研究会、三菱商事、マカイラ、ジョンソン エンド ジョンソン、NEC、フラウ、NTTドコモ</p>
資金提供者・仲介者	<p>トヨタ財団、パブリックリソース財団、あいちコミュニティ財団、日本財団、佐賀未来創造基金、地域創造基金さなぶり、SIP、ARUN、KIBOW、コミュニティ・ユース・バンクmomo、SVP東京、大阪コミュニティ財団</p> <p><行政等>内閣府</p>
中間支援組織・シンクタンク	<p>日本NPOセンター、日本フィランソロピー協会、新公益連盟、全国コミュニティ財団協会、NPOサポートセンター、SVP東京、日本公共政策研究機構、RCF、新日本監査法人、Publico、ファンドレックス、MURC、関西国際交流団体協議会、大阪NPOセンター、CANPANセンター、ケイスリー、日本サードセクター経営者協会、市民フォーラム21・NPOセンター、日本総合研究所、アカツキ、FDC</p>
評価者・研究者等	<p>日本評価学会、非営利組織評価センター、SROIネットワーク・ジャパン、日本ファンドレイジング協会、G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会、公共経営・社会戦略研究所、粉川一郎（武蔵大学）、津富宏（静岡県立大学）、小林立明</p>

※賛同メンバーは以下の通り。日本政策金融公庫、助成財団センター、高島市、公益法人協会、PwCあらた監査法人、FC東京、PHP研究所、クレーン、電通。部署として埼玉県、横浜市、高島市、メットライフ生命より。個人として、経産省、文科省、厚労省、国交省、JICA、笹川平和財団より。

普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

課題	対応策（着手すべき主な取組）
<ul style="list-style-type: none">□ 意義や必要性に対する理解の不足□ 手法に対する理解の不足□ 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足□ 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足□ 評価人材の不足□ 評価コストの負担や支援の在り方	<ul style="list-style-type: none">□ インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ□ 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成□ 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化□ 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備□ 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化□ 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施□ 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

社会的インパクト評価ツールセットの紹介

評価のためのガイドライン、ツールはいろいろあるが...



ガイドラインやツールは3つのレベルに分けて整理することができる

評価の原理・原則

評価の目的は何なのか

評価に関連する概念はどのように定義されるか

評価はどのような原理・原則に基づき行われるべきか

評価のプロセス

評価はどのようなプロセス・手順で行うのか

それぞれの手順では何をするのか

それぞれの手順で何に留意する必要があるか

具体的な アウトカム・指標

評価の対象となるアウトカムは何か

それを何で測定するのか

データはどのように収集するのか

本プロジェクトにて作成するツール

なぜツールが必要なのか？：評価を実施する上での課題

必要な資金がない

78.7%

必要な専門性やスキルがない

61.4%

どのように測定してよいかわからない

52.9%

何を測定してよいのかわからない

50.0%

資金提供者が無意味な指標での報告を求める

47.0%

英国の取組み： Shared Measurement

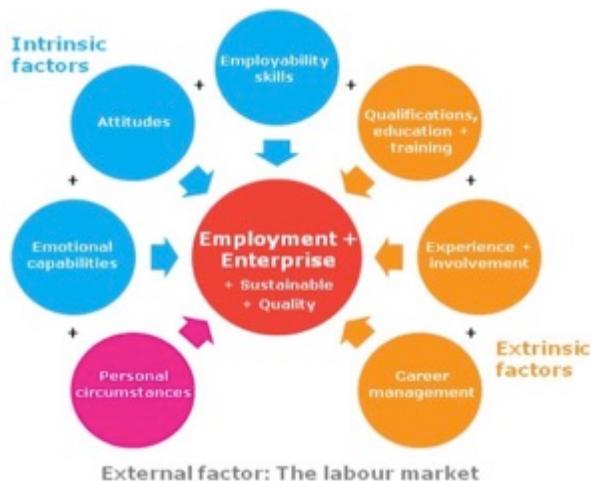
コンセプト

各事業者が目指し、生み出している変化・効果（アウトカム）は、
確かに各事業者それぞれで異なる...

でも、中には共通するものもあるんじゃないか？
そういったアウトカムの測り方って、
共有（Share）したら役立つんじゃないか？

英国の取組み： Shared Measurement

Step1:
共通アウトカムの
整理



Step3:
各指標の
測定方法

Emotional capabilities

Self-esteem

How to measure:

Rosenberg's Self-Esteem Scale (RSES) is a widely-used 10-item scale which measures feelings of self-worth or self-acceptance.

How to score:

	Strongly agree	Agree	Disagree	Strongly disagree
Positive statements	4	3	2	1
Negative statements	1	2	3	4

Sum scores for all items. Higher scores indicate higher self-esteem. *Items marked by asterisks are negative statements and should be reverse scored. Administer the survey at two intervals and compare the answers to these questions to track change over time.

Source: Rosenberg, M. (1965) *Society and the adolescent self-image*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
http://www.fetzer.org/sites/default/files/images/stories/pdf/selfmeasures/Self_Measures_for_Self-Esteem_ROSENBERG_SELF-ESTEEM.pdf

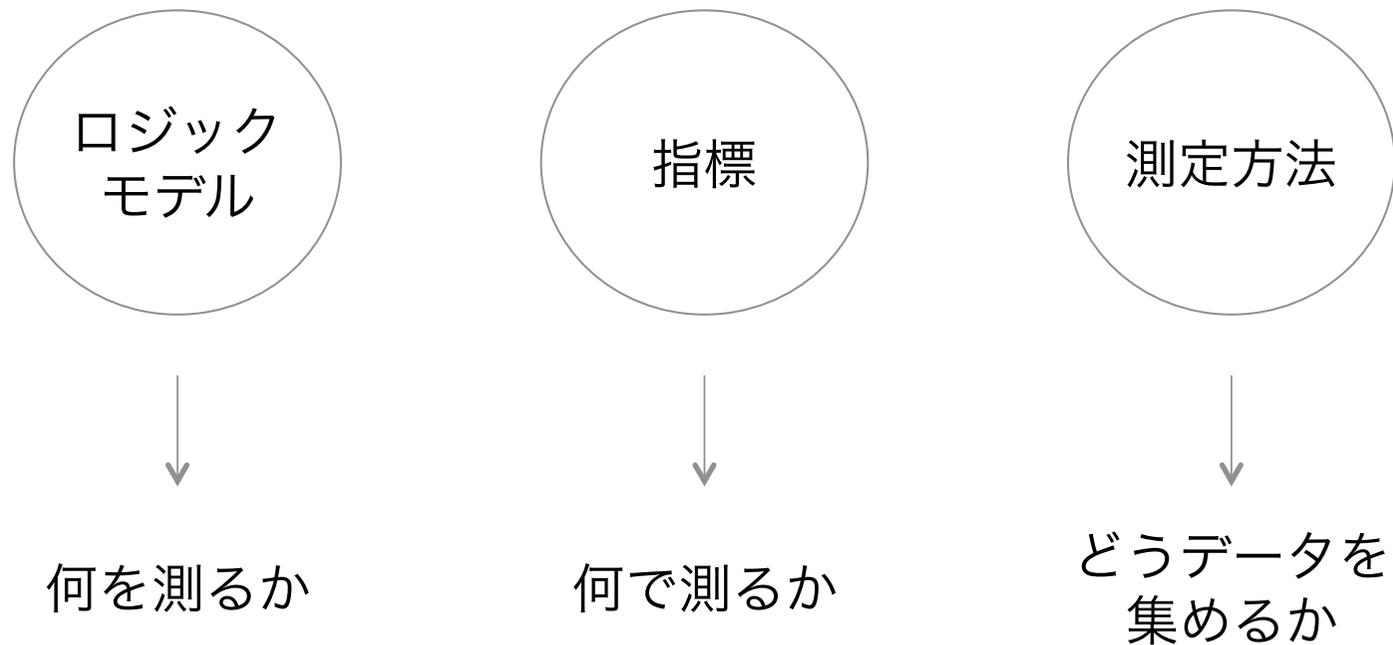
Step2:
各アウトカムの
指標



	STRONGLY AGREE	AGREE	DISAGREE	STRONGLY DISAGREE
On the whole, I am satisfied with myself	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
At times, I think I am no good at all*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I feel that I have a number of good qualities	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I am able to do things as well as most other people	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I feel I do not have much to be proud of*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I certainly feel useless at times*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I feel that I'm a person of worth, at least on an equal plane with others	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I wish I could have more respect for myself*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
All in all, I am inclined to feel that I am a failure*	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
I take a positive attitude toward myself	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会の取組み： 社会的インパクト評価ツールセット

ツールセットの3つの要素

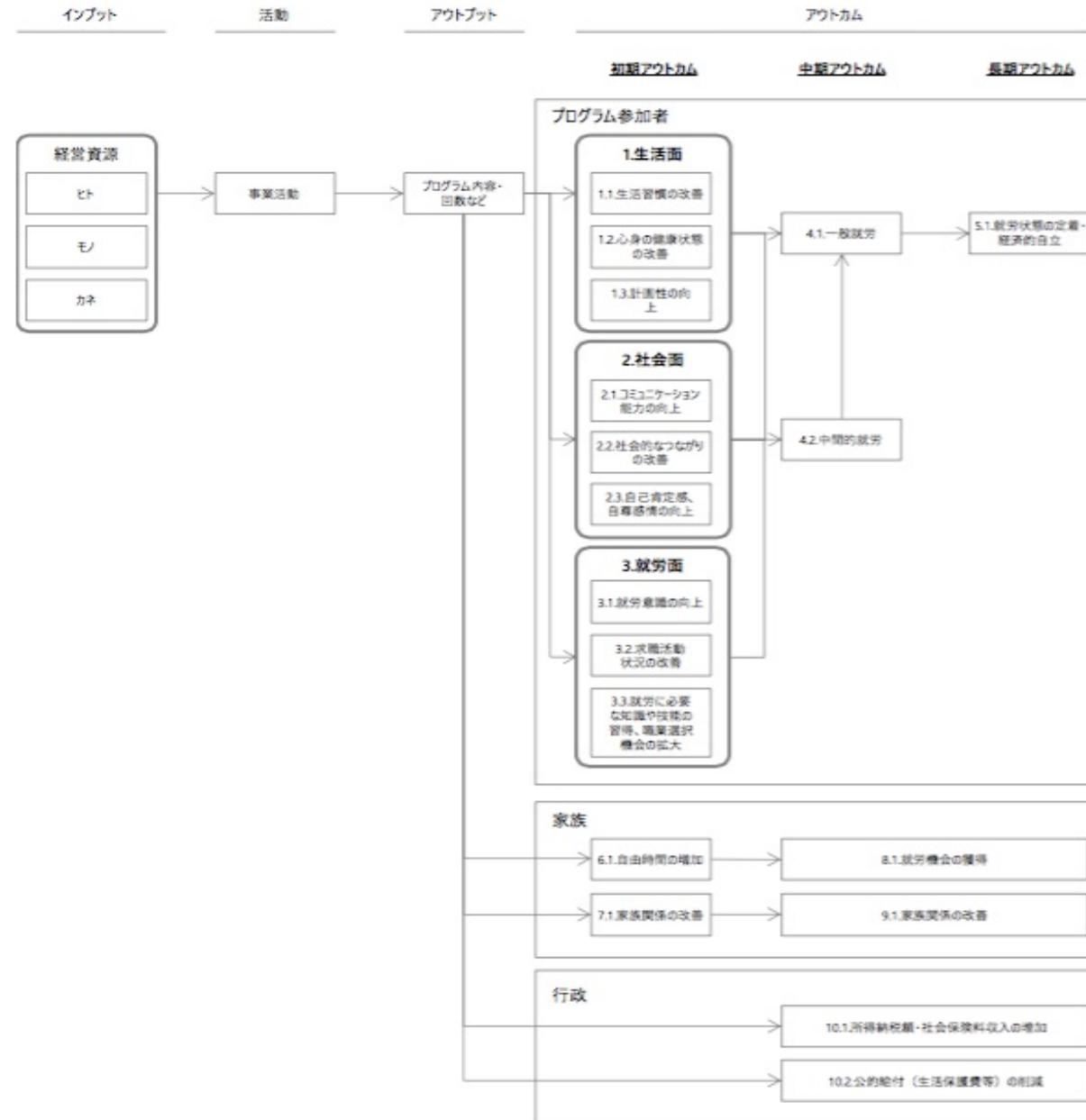


教育、就労支援、地域・まちづくりの3分野でVer.1を作成

図表 1：就労支援分野における一般的なロジック・モデル



何を測るか



* 個々のアウトカムのグルーピングは、本ツールでは便宜上行っているもので、ロジック・モデルを作成する上で必須ではありません。

図表 7：アウトカム指標と測定方法の一覧の例（就労支援事業）



何で測るか

ステークホルダー	アウトカムの種類	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法 (掲載ページ)
プログラム参加者	初期アウトカム	1. 生活自立	1.1. 生活習慣の改善	生活リズムの改善	P.7
			1.2. 心身の健康状態の改善	体力・健康の改善	P.8
			1.3. 計画性の向上	計画づくりや目標設定の改善	P.9
		金銭管理の健全性の改善		P.10	
		2. 社会自立	2.1. コミュニケーション能力の向上	コミュニケーション能力の向上	P.11
			2.2. 社会的なつながりの改善	友人・知人関係の改善	P.12
			2.3. 自己肯定感、自尊感情の向上	自己肯定感、自尊感情の向上	P.13
		3. 就労自立	3.1. 就労意欲の向上	就労意欲の向上	P.15
				働く自信の向上	P.16
	3.2. 求職活動状況の改善		求職活動状況の改善	P.17	
	3.3. 就労のための知識や技能の獲得、 職業選択機会の拡大		知識や技能の向上	P.18	
			選択機会の拡大	P.19	
	中期アウトカム	4. 就業	4.1. 一般就業	就業形態と賃金の増加	P.20
			4.2. 中間的就労	就業形態と賃金の増加	P.20
	長期アウトカム	5. 就業状態の定着	5.1. 就業状態の定着	3ヶ月後の就労定着状態	P.21
家族	初期アウトカム	6. 自由時間の増加	6.1. 自由時間の増加	自由時間の増加	P.22
		7. 家族関係の改善	7.1. 家族関係の改善	家族関係の改善	P.23
	中・長期アウトカム	8. 就労機会の獲得	8.1. 就労機会の獲得	賃金の増加	P.24
		9. 家族関係の改善	9.1. 家族関係の改善	家族関係の改善	P.23
行政	中・長期アウトカム	10. 納税額・社会保険料徴収 の増加等	10.1. 納税額・社会保険料徴収の増加	所得税納税額の増加	P.25
				社会保険料徴収の増加	P.26
		10.2. 公的給付の削減	公的給付（生活保護費等）の削減	P.27	



測定方法

どうデータを
集めるか

アウトカム 1.1. 生活習慣の改善

指標 生活リズムの改善

測定方法

出所：

障害者職業総合センター（2009）「就労支援のためのチェックリスト」

<http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/30.html>

「就労支援のための訓練生用チェックリスト」 pp.2-3

1. 起床、食事、睡眠などの生活リズムは規則正しい

1：生活リズムは規則正しくない。

2：生活リズムはあまり規則正しくない。

3：生活リズムはだいたい規則正しい。

4：生活リズムは規則正しい。

その他参考測定方法

① 厚生労働省社会福祉推進事業「生活困窮者自立支援法における就労準備支援事業評価ガイドライン」

<http://u-shien.jp/work2015/guideline/>

測定方法－アウトカムの測定方法－表5 アンケート票「1-1.生活習慣」

② 厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託（2014）「健康意識に関する調査」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000052548.html>

報告書 p.16

今後の予定

既存ツールのブラッシュアップ・継続的更新

- マニュアルの完成
- 「教育」分野での継続的更新のモデル作り

新規分野でのツール作成

- 文化・芸術
- 環境教育

ツールの活用促進

社会的インパクト評価ツールセット掲載先

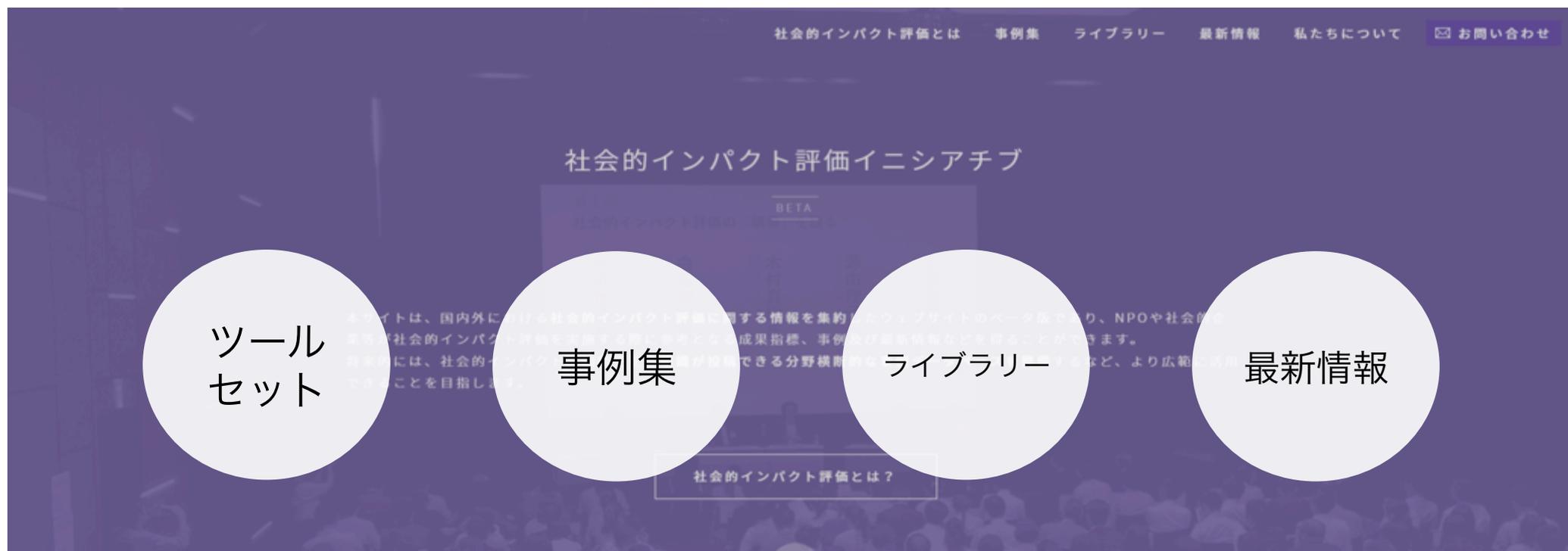
<http://impactinvestment.jp/resource/>

<http://www.impactmeasurement.jp/about/guidance.html>

普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

課題	対応策（着手すべき主な取組）
<ul style="list-style-type: none">□ 意義や必要性に対する理解の不足□ 手法に対する理解の不足□ 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足□ 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足□ 評価人材の不足□ 評価コストの負担や支援の在り方	<ul style="list-style-type: none">□ インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ□ 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成□ 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化□ 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備□ 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化□ 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施□ 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

リソースセンター概要



今後の主な取組概要

- 事例集及びライブラリー等の充実
- 海外文献の翻訳
- WEBサイト、SNSの定期的な更新

www.impactmeasurement.jp/

 www.facebook.com/impactmeasurement.jp/

 [socialimpact_jp](https://twitter.com/socialimpact_jp)

普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

課題	対応策（着手すべき主な取組）
□ 意義や必要性に対する理解の不足	□ インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ
□ 手法に対する理解の不足	□ 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
□ 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足	□ 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
□ 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足	□ 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備
□ 評価人材の不足	□ 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
□ 評価コストの負担や支援の在り方	□ 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施
	□ 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

評価の担い手育成や事例蓄積に関する最新動向

1. トヨタ財団：国内助成プログラム〈そだてる助成〉

企画書にロジックモデル作成することが義務付け。

2. 日本NPOセンター：NPO事業評価実践のための研修プログラム開発

- (1) 調査事業：NPO法人等による評価活動に関する実態調査
- (2) 育成事業：非営利事業評価実践者育成のための講師育成研修（TOT）準備
- (3) 普及事業：非営利事業評価の基礎に関する小冊子の発行・配布
（「知っておきたいNPOのこと～評価編」）

3. 内閣府委託事業「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」

NPO、社会的企業3団体を対象に社会的インパクト評価を実施

4. 内閣府委託事業「社会的インパクト評価の普及促進に係る調査」

全国6ブロック60団体のロジックモデル作成と評価支援人材の育成

普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

課題	対応策（着手すべき主な取組）
<ul style="list-style-type: none">□ 意義や必要性に対する理解の不足□ 手法に対する理解の不足□ 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足□ 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足□ 評価人材の不足□ 評価コストの負担や支援の在り方	<ul style="list-style-type: none">□ インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ□ 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成□ 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化□ 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備□ 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化□ 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施□ 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

ロードマップの構成要素

①テーマ

④テーマ毎の幹事団体

③アクションプラン

②ビジョン(目標)

	2012年	2013-15年	2016-22年	10年先の目標	
リーダーシップとカルチャー	<ul style="list-style-type: none"> インパクト測定のエビデンスを構築する 業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価の原則を開発する インパクト・アプローチのケースを創る 	<ul style="list-style-type: none"> 増加するインパクトアプローチへのコミットメント インパクトリーダーシップが実践される 	<ul style="list-style-type: none"> 多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる 	<p>何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。</p> <p>自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。</p>
ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&I)	<ul style="list-style-type: none"> インパクトファンダーのコミュニティを形成する インパクト評価からの失敗と学習のスペースを創出 ファンダーは、自身及び投資先に対するインパクトアプローチの価値を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> 20のファンダーが評価宣言にサイン 助成先に対するインパクト評価支援の原則及びガイドラインが存在する 増加するF, C&Isに対するインパクト評価へのコミットメント 	<ul style="list-style-type: none"> ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援 インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー 	<ul style="list-style-type: none"> コミッショナーは、実際（歴史的な）の業績に対する目標をデザインしている。 ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている 	<p>ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。</p> <p>インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。</p>
社会的インパクト評価支援 (IMS)	<ul style="list-style-type: none"> 共通診断/自己評価が利用可能 用語について合意（インパクト、アウトカム、アウトプット） 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価アプローチに関する簡単なガイダンスが利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> 組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる（明確なアクセスポイントを経由して） 多くの組織が、インパクト評価アプローチや、使用するD,T&Sの開発方法を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の「外」がレビューされ、その価値が知られている 多くの組織が、自分が必要とするD,T&Sの支援にアクセスする 	<p>効率的な支援のネットワークが存在する。</p> <p>分野別アプローチにリンクしており、ベスト・プラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。</p>
データ、ツール、システム (D, T&S)	<ul style="list-style-type: none"> ツールに関するガイダンスを提供する D,T&Sの市場を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ツールのベネフィットや挑戦をレビューする 政府のデータ共有のパイロット事業 	<ul style="list-style-type: none"> SMのD,T&Sが広範に利用可能 データ共有の青写真 	<ul style="list-style-type: none"> プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている 法令により公開され、アクセス可能な政府の主要データ 政府のデータにアクセスすることが、標準となっている 	<p>適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。</p> <p>それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。</p>
Shared Measurement (SM)	<ul style="list-style-type: none"> SMを複数の分野でテストする SMのベネフィットと課題をレビューする 	<ul style="list-style-type: none"> SMの原則に同意する SMの青写真に同意する 	<ul style="list-style-type: none"> SMチャンピオンとスポンサーが契約する F, C&Isによって活用されるSM 役に立つエビデンスとの連携によって、組み込まれたSM 	<ul style="list-style-type: none"> SMが傘下の組織、アカデミック、プロバイダー、ファンダー、コミッショナー、投資家の規範・標準となっている 	<p>Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。</p> <p>標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。</p>

Inspiring Impactが実施すべき優先事項

Inspiring Impactが実施できる優先事項

Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項

ロードマップ作成スケジュールとアウトプット

スケジュール

アウトプット

8月5日：第1回作業部会

9月上旬：意見交換会（第2回全体会合）
同日に第2回作業部会開催

9月末：ソーシャル・イノベーション・
フォーラムで発表

10月上旬：第3回作業部会

10月下旬～11月上旬：パブリックコメント募集

11月下旬：第4回作業部会

12月：発表

- ①テーマ、②ビジョンの案を作成

- ①テーマ、②ビジョンの確定
- ③アクションプランの検討

- ①テーマ、②ビジョンに関して発表

- ③アクションプラン案確定、④幹事団体
検討

- イニシアチブWeb上でパブコメ募集

- パブコメの内容を反映させて完成

- シンポジウムの開催など

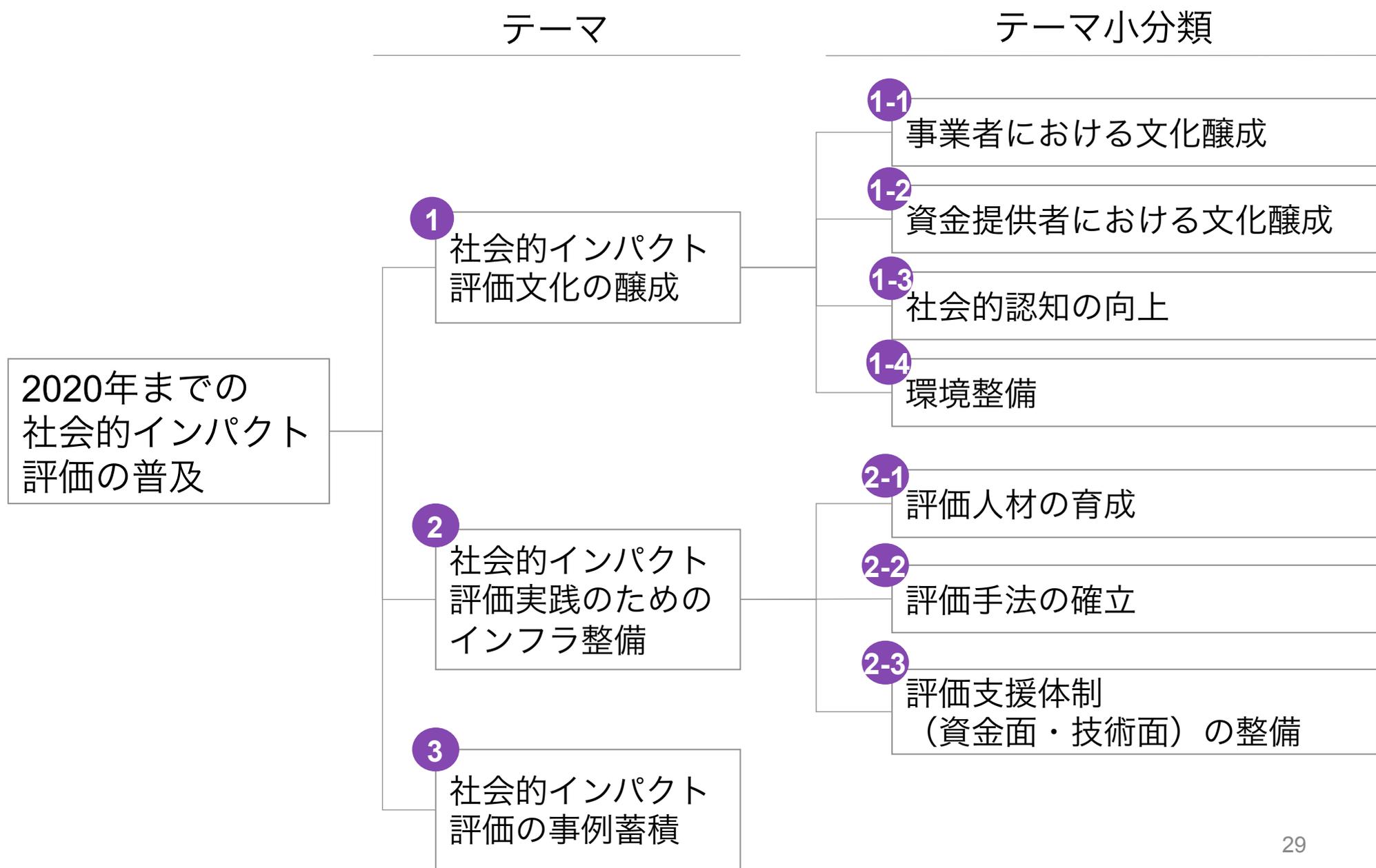


テーマ毎に幹事団体を中心にプロジェクトを組成し、ロードマップの実行フェーズへ

ロードマップ作業部会（約30団体）の様子



社会的インパクト評価普及に向けたロードマップ（案）：テーマの全体像



社会的インパクト評価普及に向けたロードマップ（案）：①評価文化の醸成

テーマ	テーマ小分類	目標
<p>① 社会的インパクト評価文化の醸成</p>	<p>①-1 事業者における文化醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決を目指す事業者の●割がインパクト志向になり、インパクトサイクルにもとづく事業運営をするようになっている。 社会的インパクト評価の実践が、セクター、地域を超えて広がっている。
	<p>①-2 資金提供者における文化醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決を目指す資金提供者のうち●割がインパクトサイクルにもとづく事業運営をするようになっている。 資金提供額の●割がインパクト志向の団体に提供されている。 行政では、●の省庁・自治体において、社会的インパクト評価が実施されている。
	<p>①-3 社会的認知の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会的インパクト評価・インパクトサイクルに基づく事業運営が事業者の信頼性と結びつくようになっている。
	<p>①-4 環境整備</p>	

社会的インパクト評価普及に向けたロードマップ（案）：②インフラ整備

テーマ	テーマ小分類	目標
<p>2 社会的インパクト 評価実践のための インフラ整備</p>	<p>2-1 評価人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会的インパクト評価の人材育成プログラムが開発され研修が実施されている。 全国に100名の社会的インパクト評価士が存在し評支援が定着している。
	<p>2-2 評価手法の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン、手引きが開発され、実際に活用されている。 20分野で標準的な指標が整理、活用されている。
	<p>2-3 評価支援体制 (資金面・技術面)の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資金提供者等から評価コスト支援が行われている。 評価支援基金が設立され支援が行われている。 リソースセンターが継続して運用されている。 コミュニティによる支援、ピアレビューが行われている。

社会的インパクト評価普及に向けたロードマップ（案）：③事例蓄積

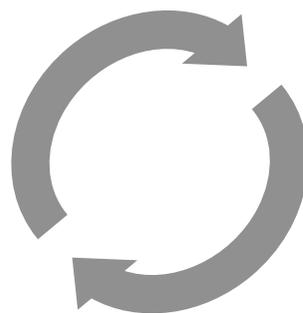
テーマ

目標

3

社会的インパクト評価の事例蓄積
(システムとデータベース)

- 多様な評価事例の蓄積（100地域1000事例、各分野×3つ、プロジェクト・プログラム別等）



定期的なフィードバックと改善の仕組み

1

社会的インパクト評価文化の醸成

2

社会的インパクト評価実践のためのインフラ整備

ロードマップ作成スケジュールとアウトプット

スケジュール

アウトプット

8月5日：第1回作業部会

9月上旬：意見交換会（第2回全体会合）
同日に第2回作業部会開催

9月末：ソーシャル・イノベーション・
フォーラムで発表

10月上旬：第3回作業部会

10月下旬～11月上旬：パブリックコメント募集

11月下旬：第4回作業部会

12月：発表

• ①テーマ、②ビジョンの案を作成

• ①テーマ、②ビジョンの確定
• ③アクションプランの検討

• ①テーマ、②ビジョンに関して発表

• ③アクションプラン案確定、④幹事団体
検討

• イニシアチブWeb上でパブコメ募集

• パブコメの内容を反映させて完成

• シンポジウムの開催など



テーマ毎に幹事団体を中心にプロジェクトを組成し、ロードマップの実行フェーズへ

【問い合わせ先】

社会的インパクト評価イニシアチブ 共同事務局

E-mail: info@impactmeasurement.jp

Web: www.impactmeasurement.jp